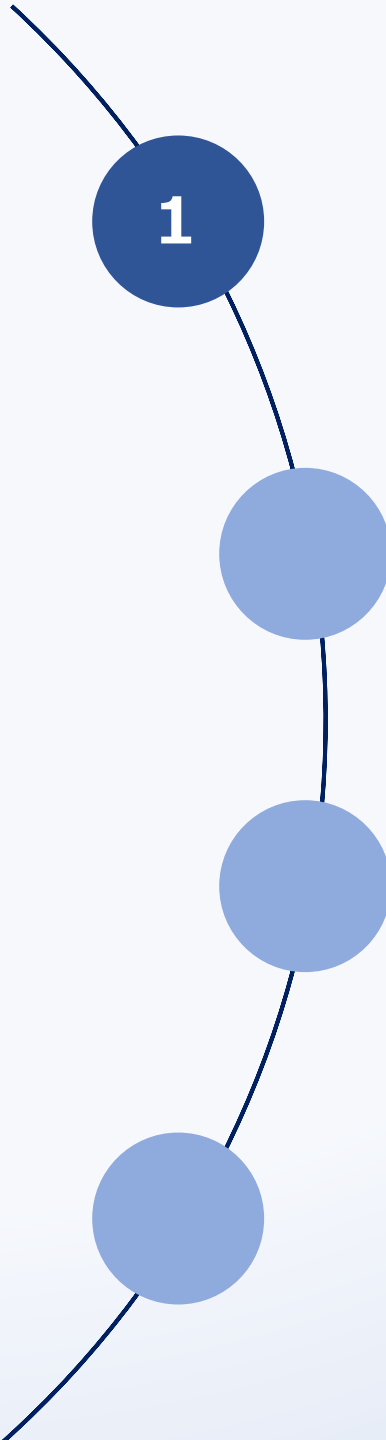




オムロン 基本情報

2025年10月
オムロン株式会社 IR部



1

オムロンの概要

中期経営計画と構造改革

オムロンの事業

ESG・還元方針

会社データ

創業	1933年（昭和8年）5月10日
本社	京都府京都市下京区塩小路通堀川東入
資本金	641億円
連結売上高	8,018億円（2024年度）
連結従業員数	26,614人*（国内：11,073人 海外：15,541人）
上場市場	東証プライム（証券コード 6645）
時価総額	8,394億円（2025年9月末日）

*2025年5月末時点

オムロンの社員は社憲の精神を企業理念として受け継いでいる

オムロン企業理念

Our Mission

(社憲)

われわれの働きで われわれの生活を向上し よりよい社会をつくりましょう

Our Values

私たちが大切にする価値観

・ソーシャルニーズの創造

私たちは、世に先駆けて新たな価値を創造し続けます。

・絶えざるチャレンジ

私たちは、失敗を恐れず情熱をもって挑戦し続けます。

・人間性の尊重

私たちは、誠実であることを誇りとし、人間の可能性を信じ続けます。

経営のスタンス

私たちは、「企業は社会の公器である」との基本的考えのもと、
企業理念の実践を通じて、持続的な企業価値の向上を目指します。

- ・ 長期ビジョンを掲げ、事業を通じて社会的課題を解決します。
- ・ 真のグローバル企業を目指し、公正かつ透明性の高い経営を実現します。
- ・ すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、強固な信頼関係を構築します。

定款

第2条

当会社は、「われわれの働きで われわれの生活を向上し よりよい社会をつくりましょう」という社憲の精神に基づき企業理念を実践し、事業を通じて社会の発展に貢献するとともに、企業価値の向上に努める。

オムロンの歩みと世界初のイノベーション

時代の変化が生み出す社会的課題を解決する"ソーシャルニーズの創造"に挑戦し、
世の先駆けとなる様々なイノベーションで事業を拡大

1948 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

社会的課題

ソーシャル
ニーズ

オムロンの
ソリューション

連結売上高
推移

高度経済成長を支える
モノづくりの生産性向上の必要性

工場の自動化

1960



世界初
無接点近接スイッチ

都市部への人口集中による
公共交通機関の混雑

社会システムの自動化

1967



世界初
無人駅システム

1964



世界初
全自動感應式電子信号機

経済発展や生活様式の変化による
健康意識の高まり

家庭での血圧測定の普及

1973



電子血圧計

1971



オンライン
キャッシュディスペンサ

情報化社会の発達

デジタル機器の普及を加速する技術提供

1987



世界初
超高速ファジィコントローラ

1995



顔画像
認識技術「OKAO Vision」

地球温暖化の深刻化

再生可能エネルギーの普及

2011



パワーコンディショナー

2018



世界初
ウェアラブル血圧計

労働人口減少や人件費高騰

工場の省人化 モノづくりの高度化

2019



世界初
心電計付血圧計

2020



世界初
ロボット統合コントローラ

ソーシャルニーズの創造の源泉となる**コア技術**をベースに、**5つの事業**を通じて**社会的課題を解決**する

オムロンのコア技術



5つの事業



社会的課題
の解決

データソリューション事業（DSB）

データを活用した新規事業の開発・拡大と、グループにおけるソリューションビジネスの進化をリード

電子部品事業（DMB）

新エネルギーの導入・デジタル化社会の実現に向け、高周波・省エネ等のデバイスを提供



社会システム事業（SSB）

カーボンニュートラル、デジタル社会の実現に向け、パワコン・蓄電、鉄道等の社会インフラ基盤を提供



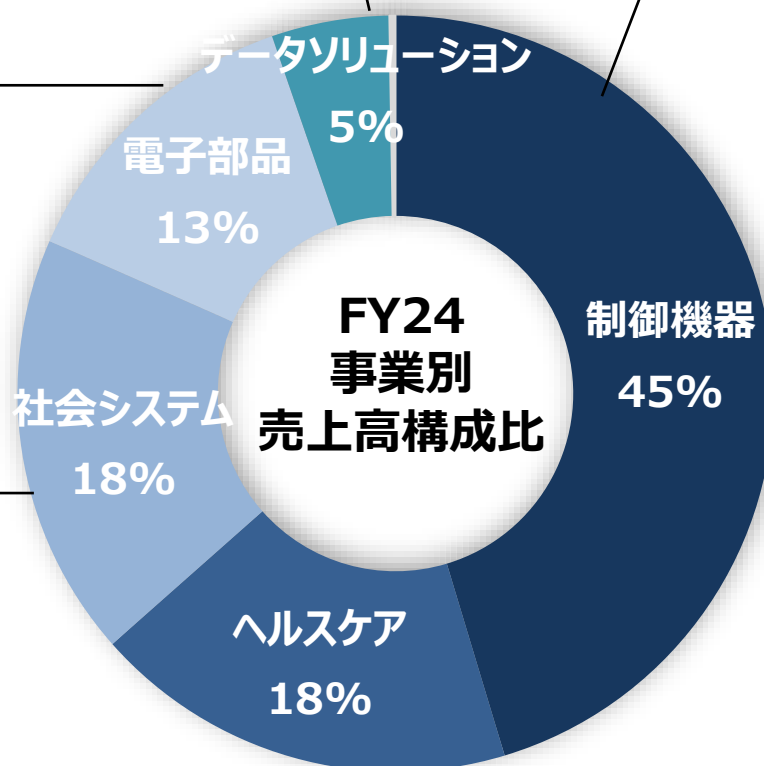
制御機器事業（IAB）

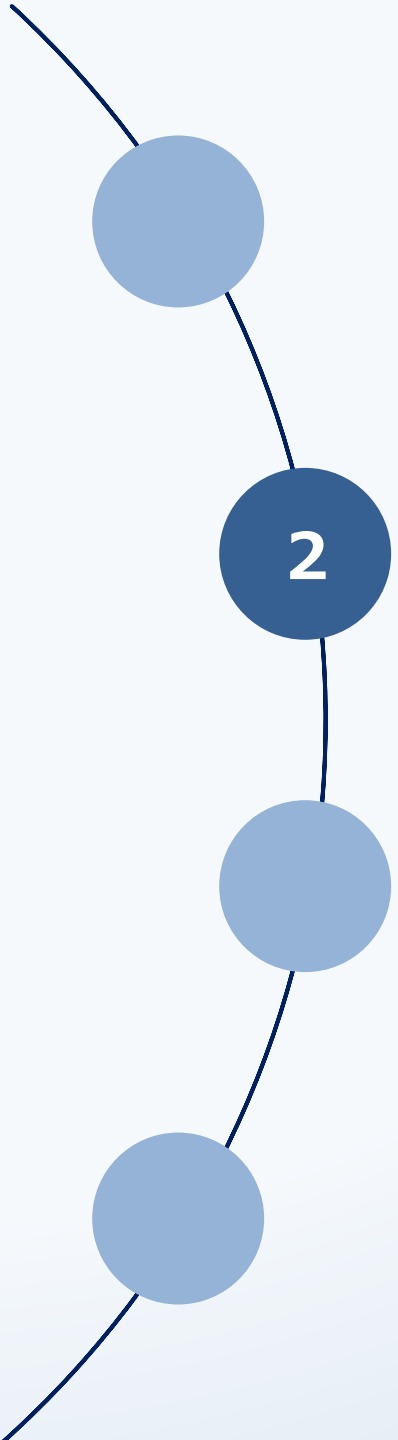
工場の生産ライン自動化に向け幅広いFA機器・革新的ソリューションを提供



ヘルスケア事業（HCB）

循環器・呼吸器疾患の重症化を予防し、ゼロイベント実現に向けた革新的デバイス・サービスを提供





オムロンの概要

2

中期経営計画と構造改革

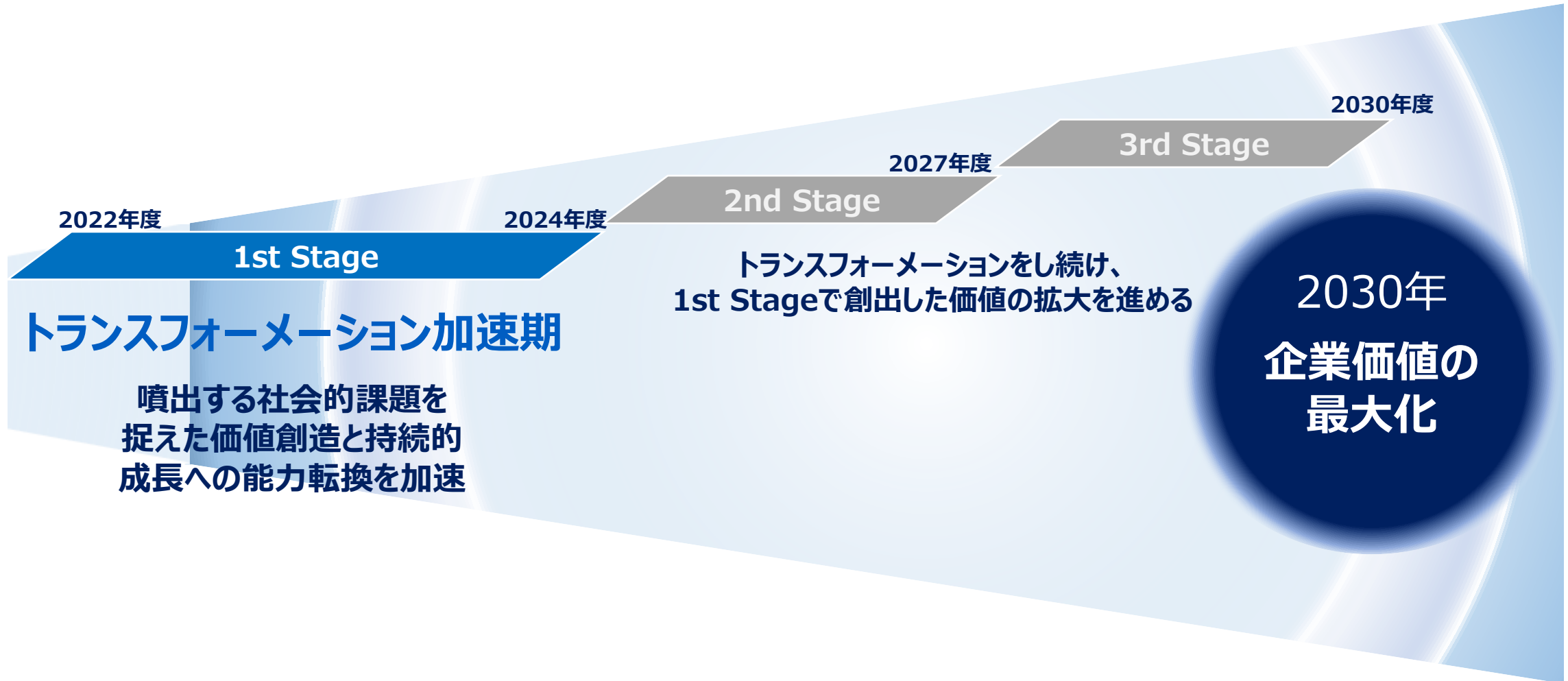
オムロンの事業

ESG・還元方針

中期経営計画 SF 1st Stage

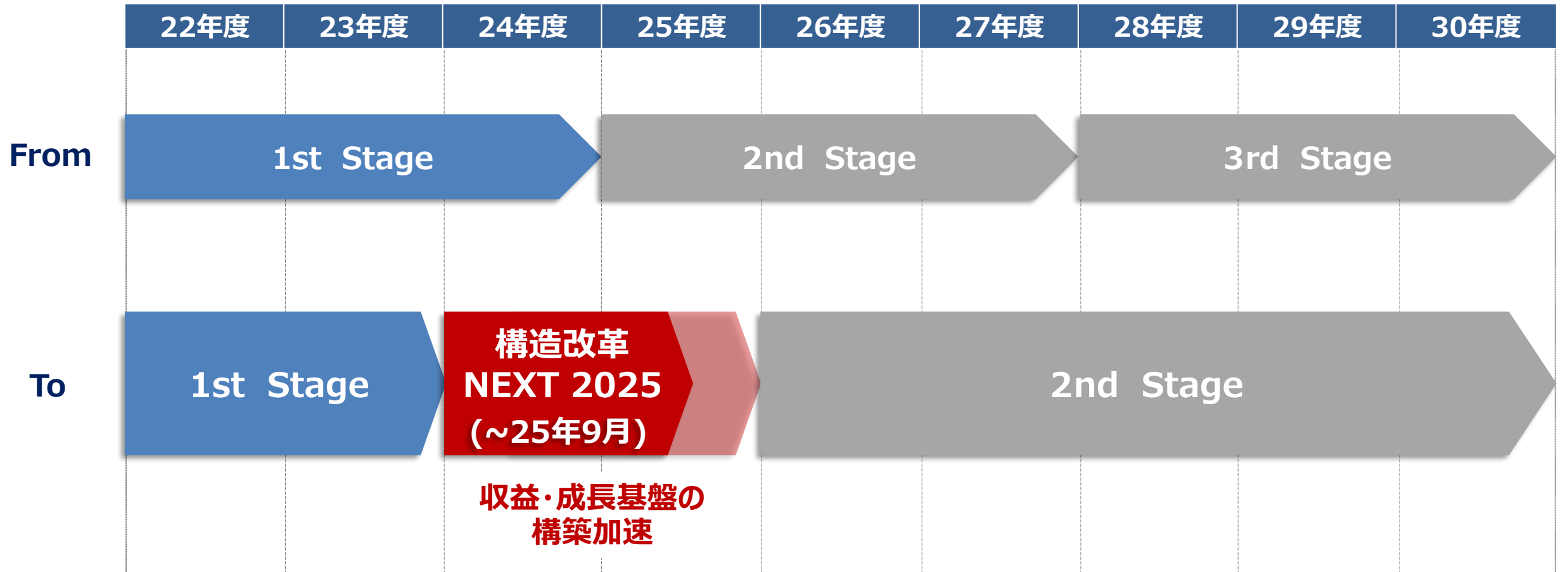
9

FY22から始まった中計初年度1st Stageは、社会的課題を捉えた価値創造と持続的成長への能力転換を加速する“**トランスフォーメーション加速期**”と位置づけ

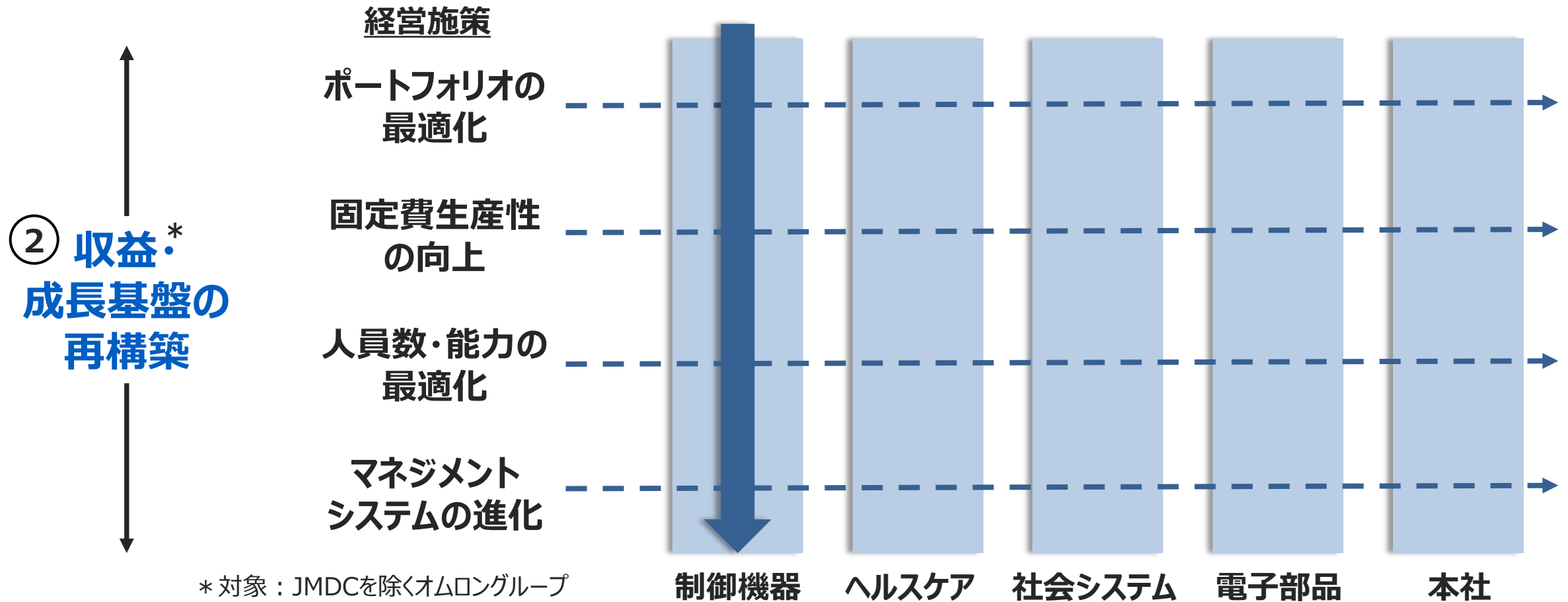


構造改革の実行

事業環境の大きな変化を受け、全社経営の抜本的改革を実行するべく、
FY24-FY25を構造改革期間と位置づけ



① 制御機器事業の 早急な立て直し



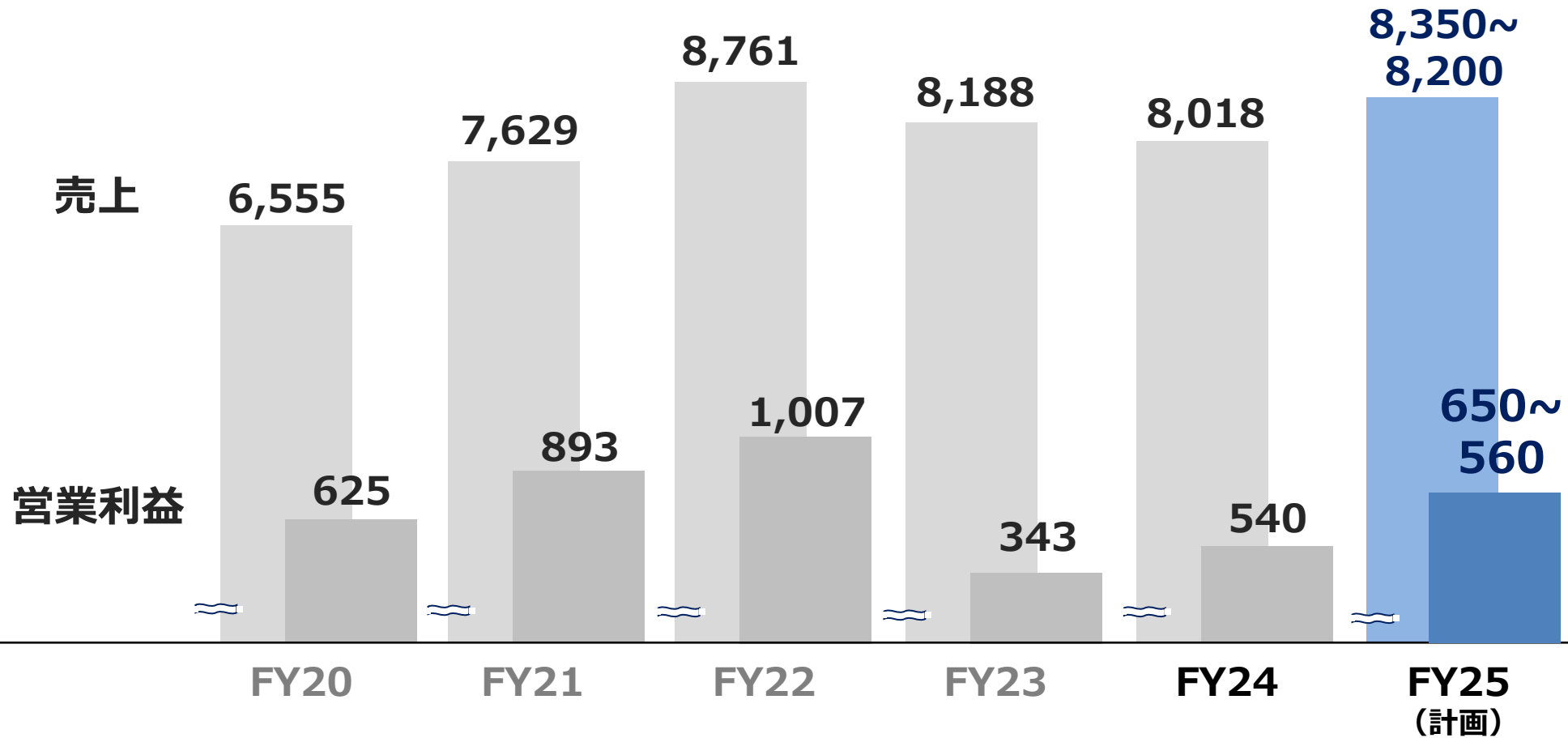
構造改革後の業績展望

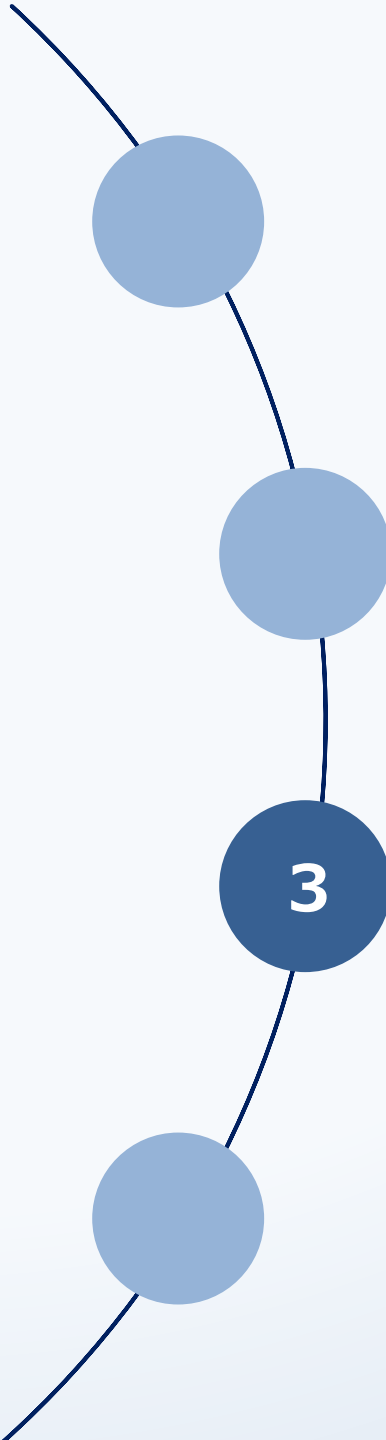
構造改革の取り組み成果により、FY23以降は増益を実現

構造改革期間



(億円)





オムロンの概要

中期経営計画と構造改革

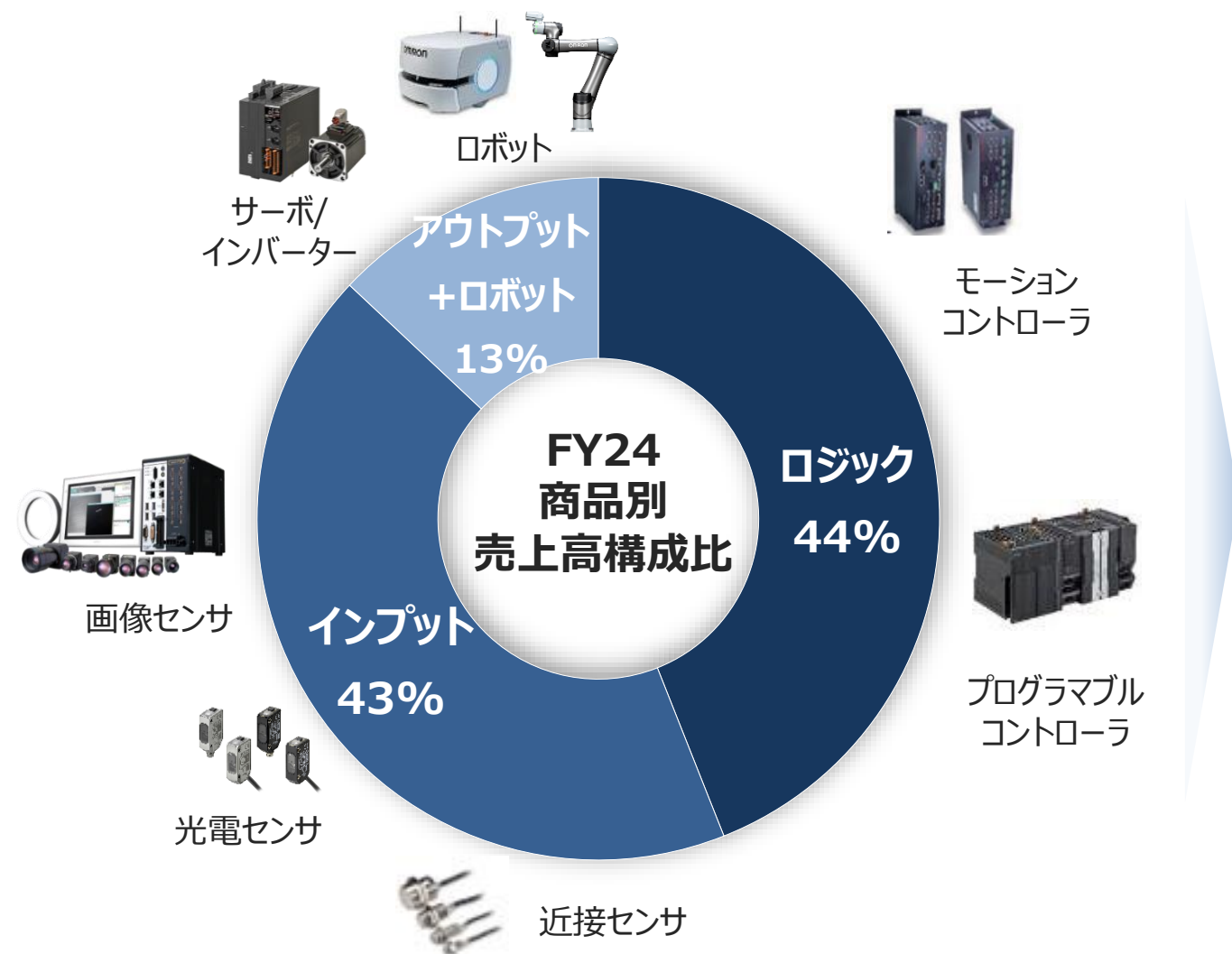
3

オムロンの事業

ESG・還元方針

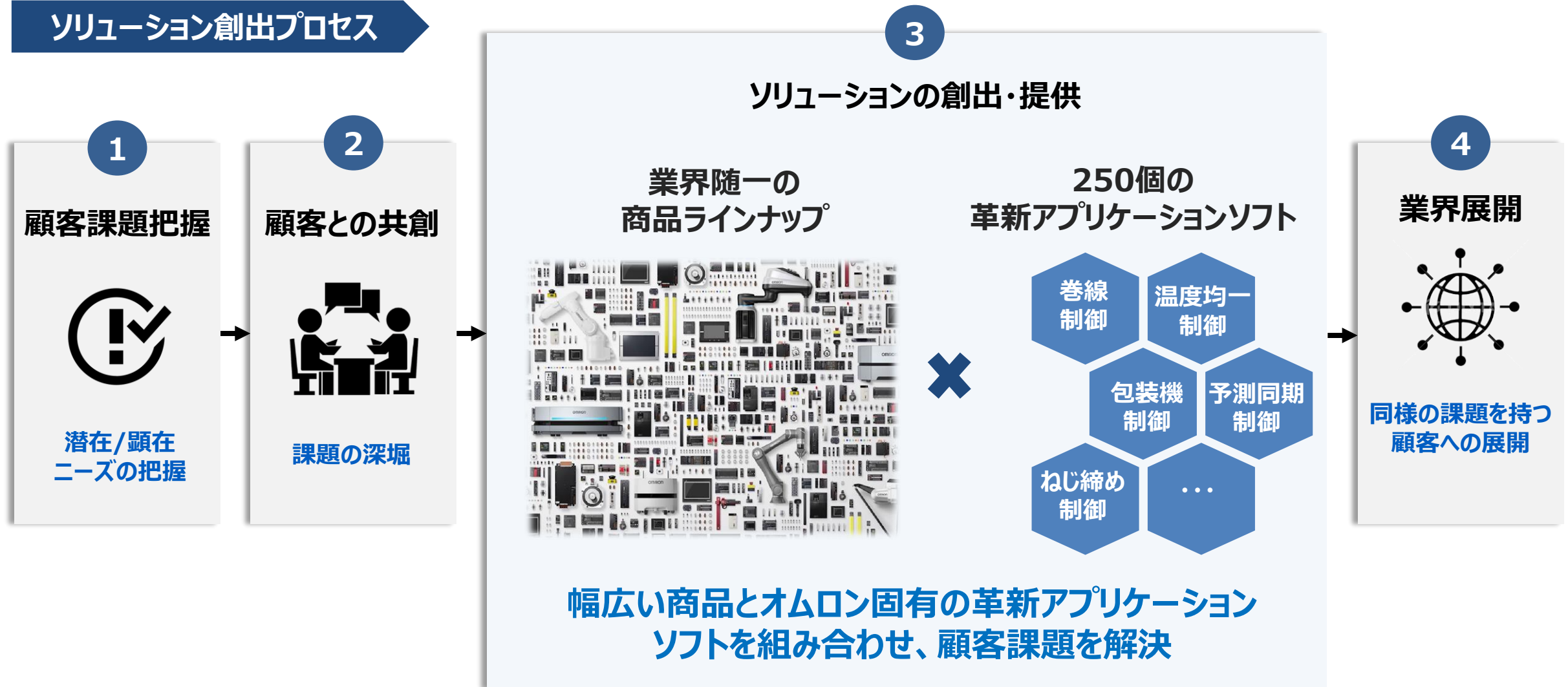
工場の生産ライン自動化に向け、幅広いFA機器・革新的ソリューションを提供

エンドユーザー/マーケット

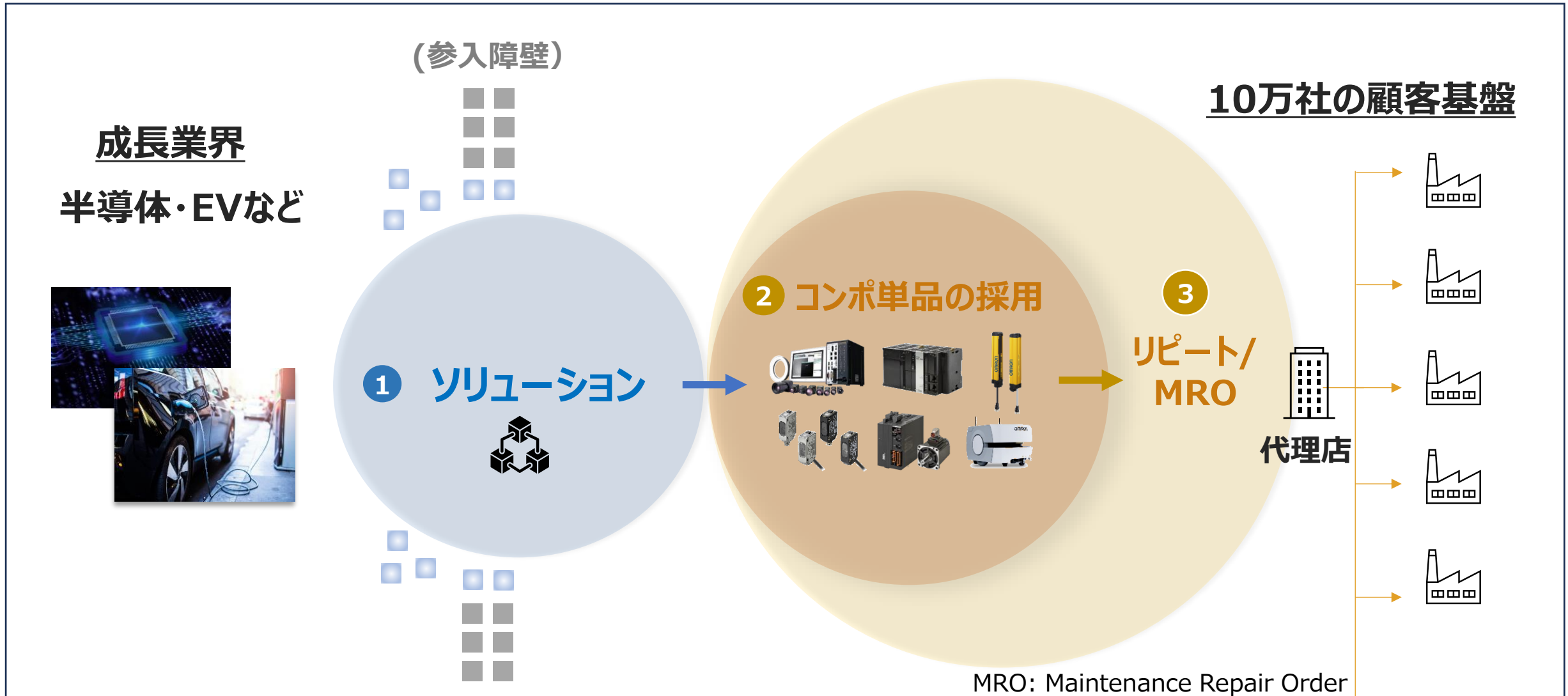


顧客との共創から生まれるオムロン固有のソリューションが強み

ソリューション創出プロセス



ソリューションを武器に顧客開拓を進め、コンポーネント・サービス、そしてMROへと拡大



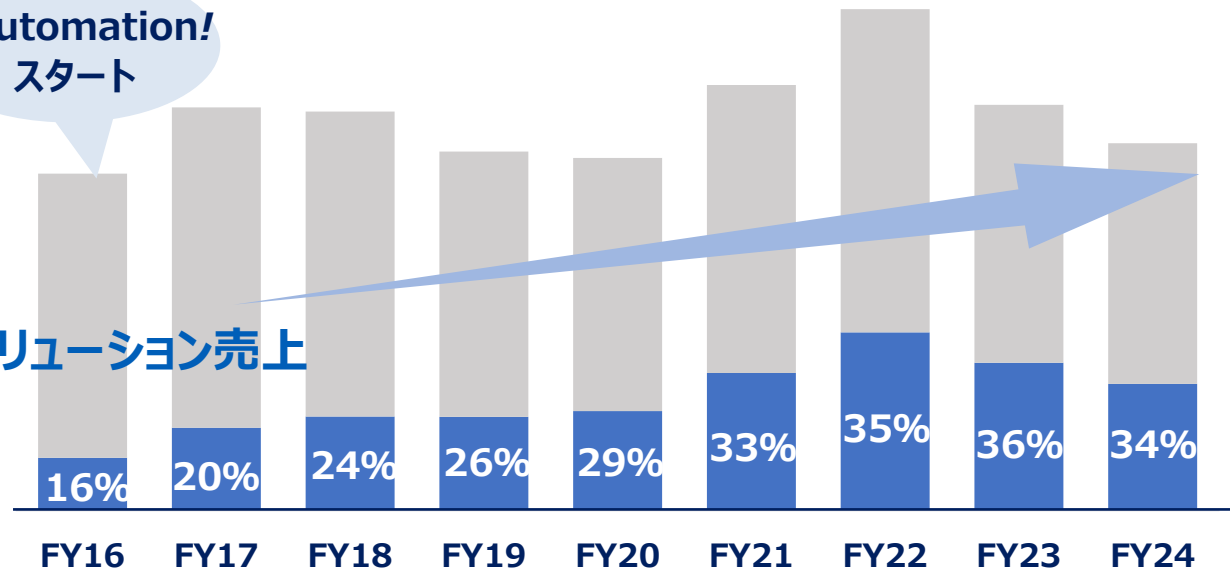
2016年度以降、ソリューションビジネスは順調に拡大。i-Automation!の採用が加速

ソリューション売上構成比率

CAGR +12%
(FY16→24)

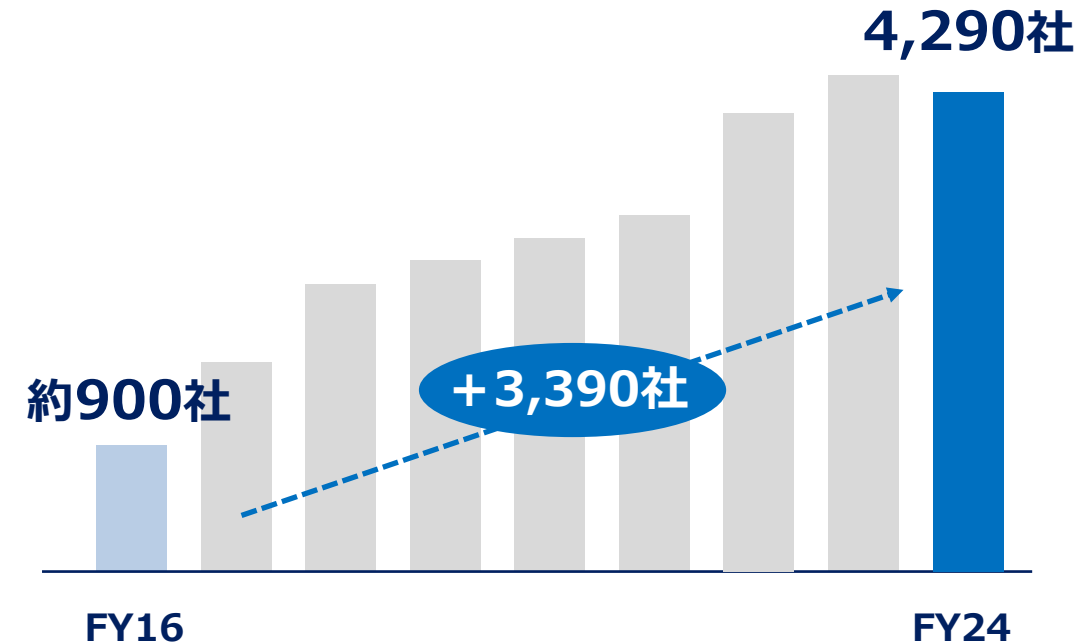
i-Automation!
スタート

ソリューション売上



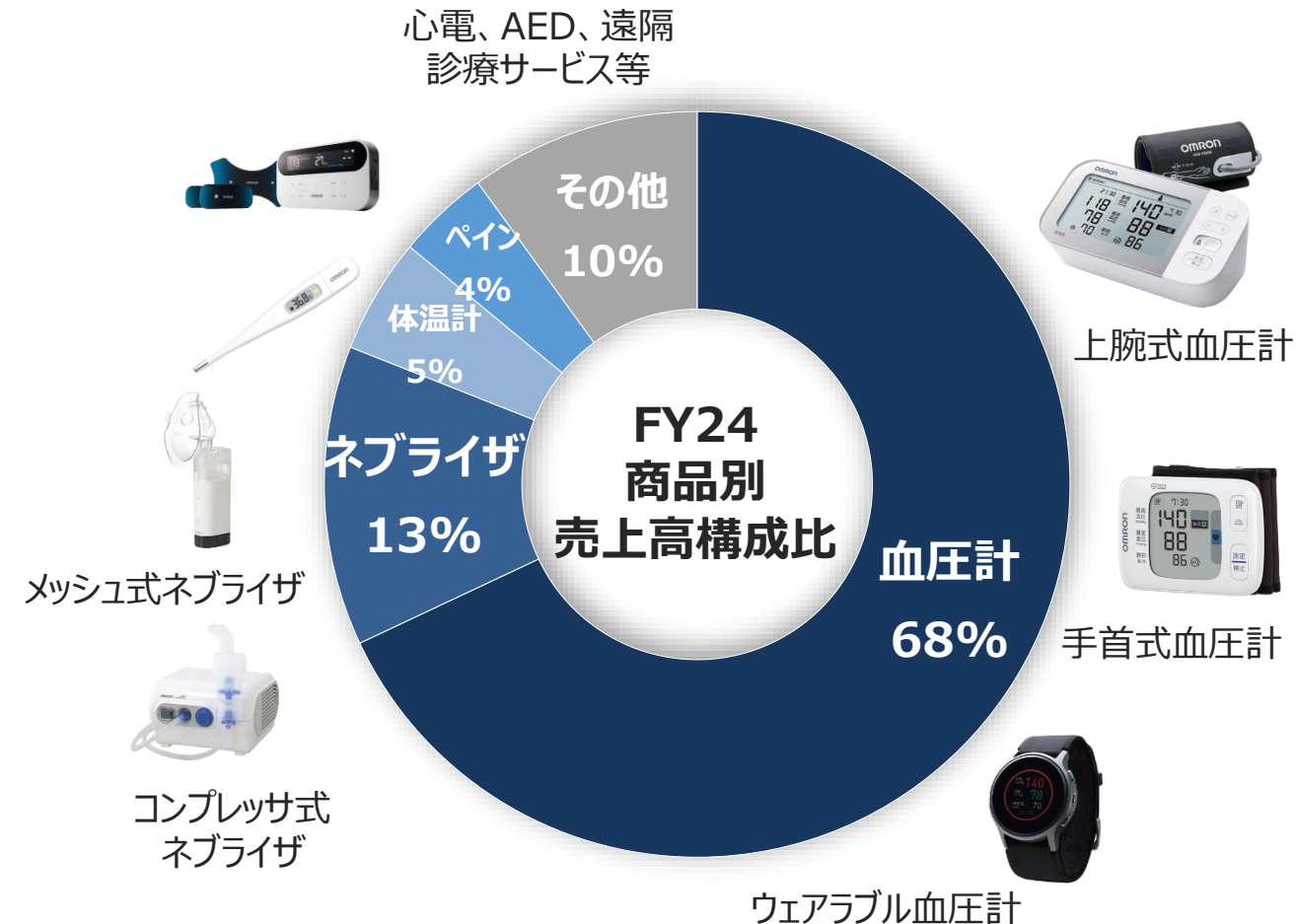
i-Automation!採用顧客数

FY24 4,290社
(FY16比 ; 約4.8倍)



循環器・呼吸器疾患の重症化を予防し、ゼロイベント実現に向けた革新的デバイス・サービスを提供

エンドユーザー/マーケット

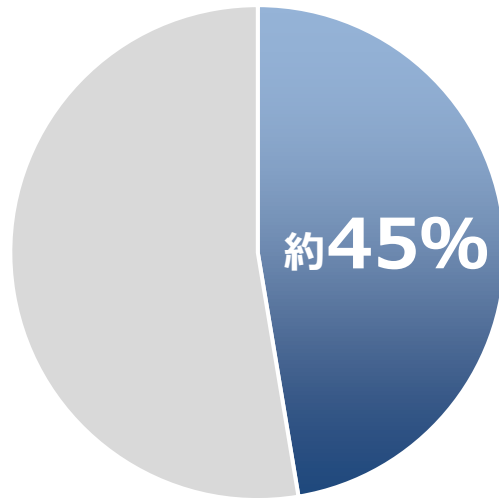


3つの商品領域において、**グローバルでNo.1のシェア**を持つ

2023年度 マーケットシェア

▷ 循環器

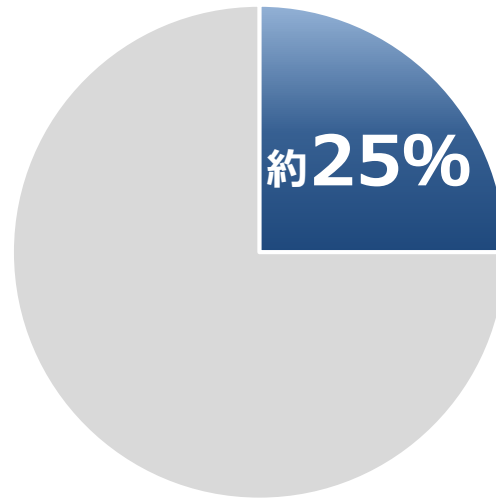
家庭用血圧計



グローバルNo.1

▷ 呼吸器

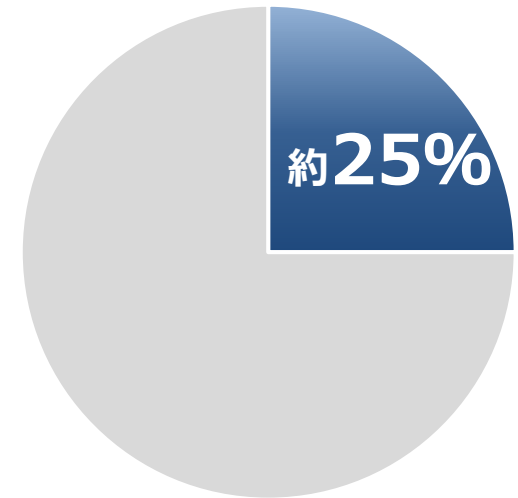
ネブライザ



グローバルNo.1

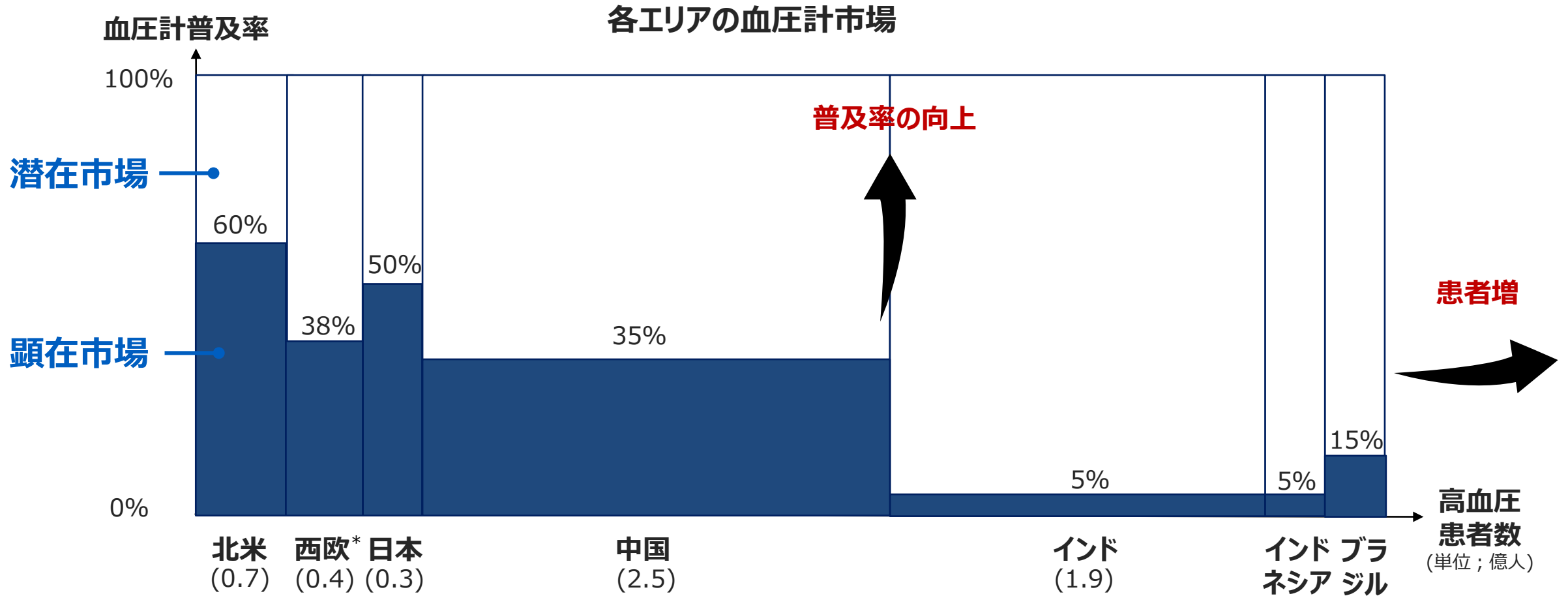
▷ ペインマネジメント

低周波治療器



グローバルNo.1

新興国の潜在市場は大きい。先進国も高齢化に伴う高血圧患者数増により拡大



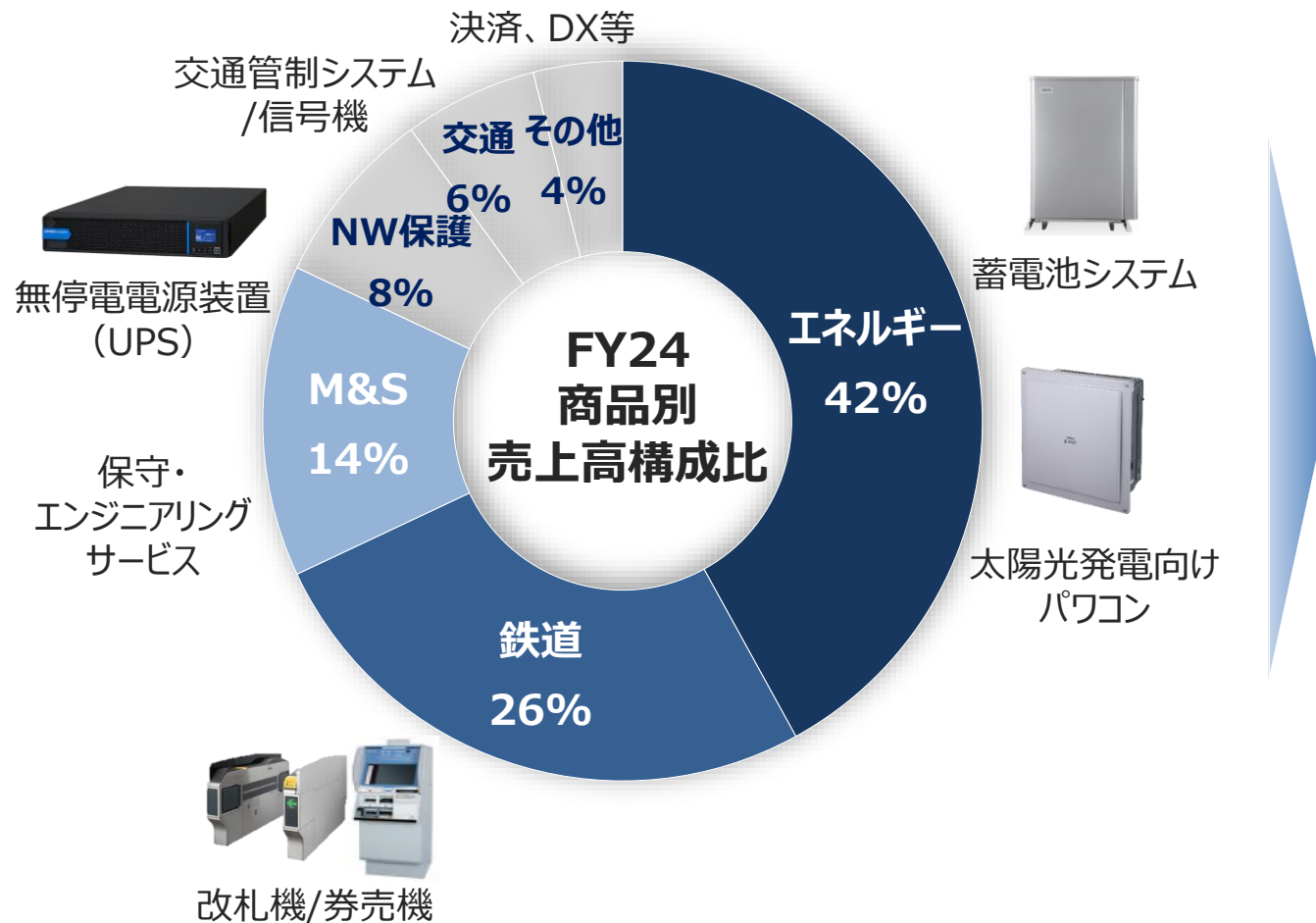
* 西欧はドイツ・フランス・イギリス・イタリアのみ

出典: 高血圧患者数…WHO発表の高血圧人口に人口動態 (30歳~79歳) を掛け合わせ算出。

普及率…推定高血圧患者数と買い替えサイクルを5年としたときの他社を含む血圧計の総販売台数の推定値から算出

カーボンニュートラル、デジタル社会の実現に向け、パワコン・蓄電、鉄道等の社会インフラ基盤を提供

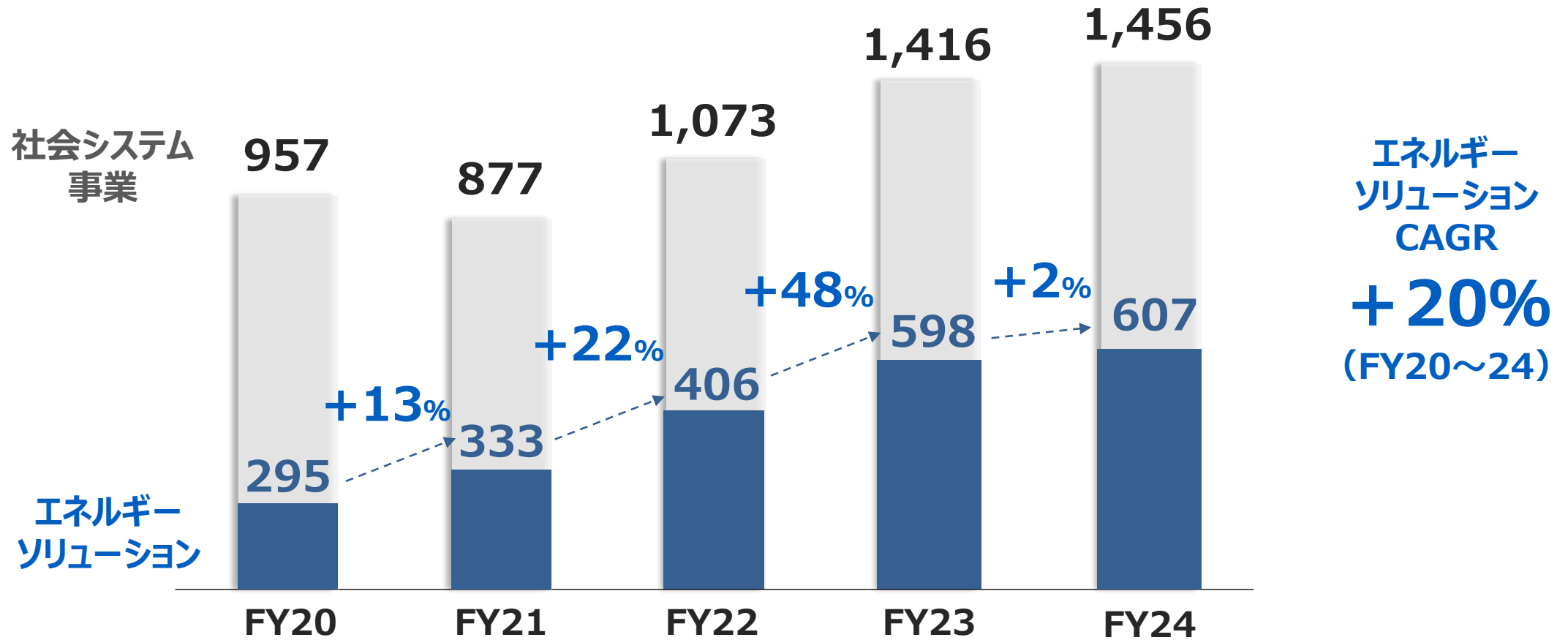
主なエンドユーザー/マーケット



エネルギーソリューションが社会システム事業全体の成長をけん引

【売上高 推移】

(単位：億円)



PVパワコン、蓄電システムともに市場普及率は依然低く、**ホワイトスペースは大きい**

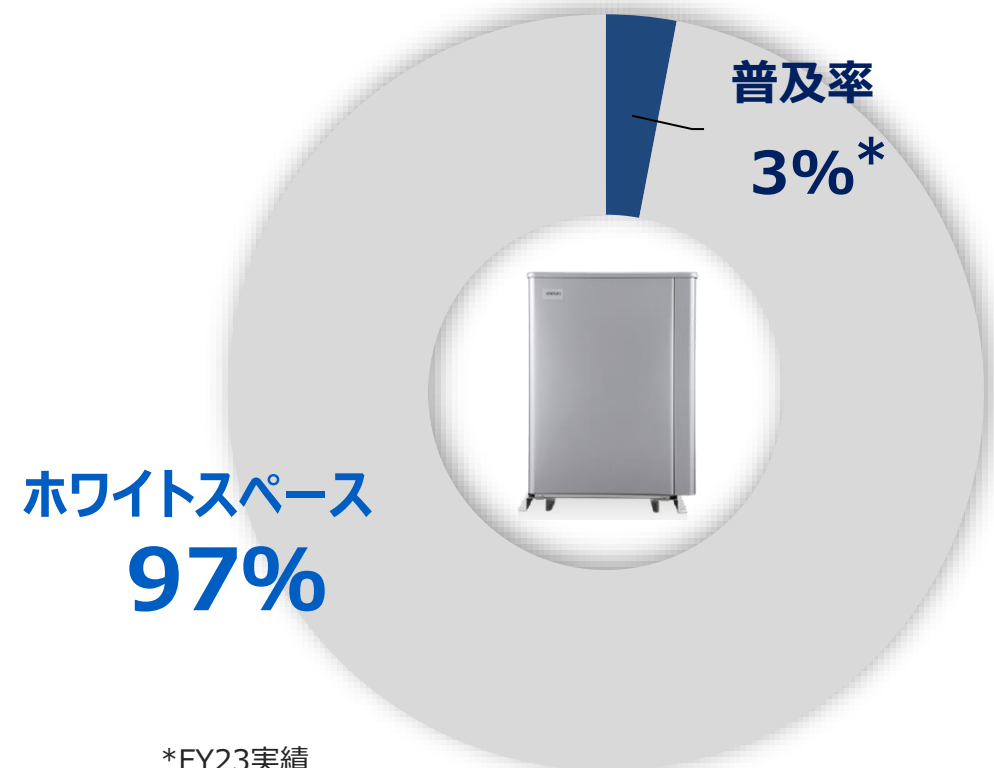
住宅向け太陽光発電(PVパワコン)普及率



*FY22実績

*PV導入件数 / 戸建住宅総数 2,870万戸

蓄電システム普及率



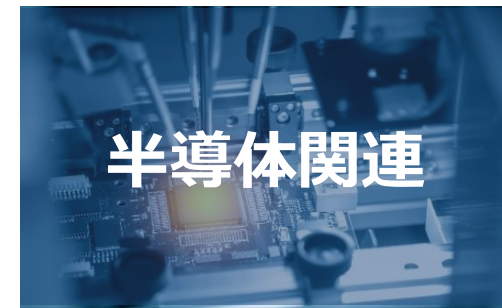
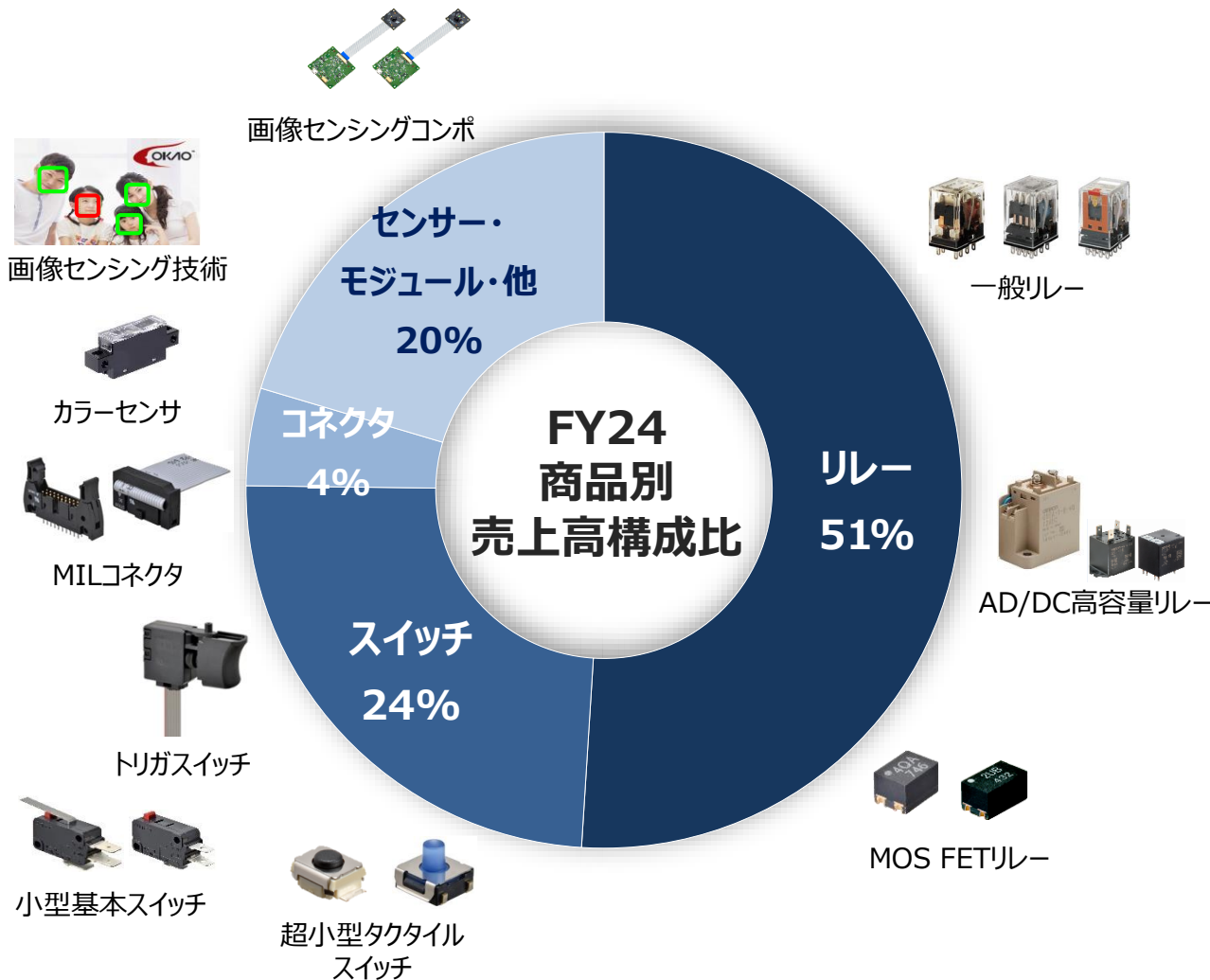
*FY23実績

蓄電システム導入件数/戸建住宅総数

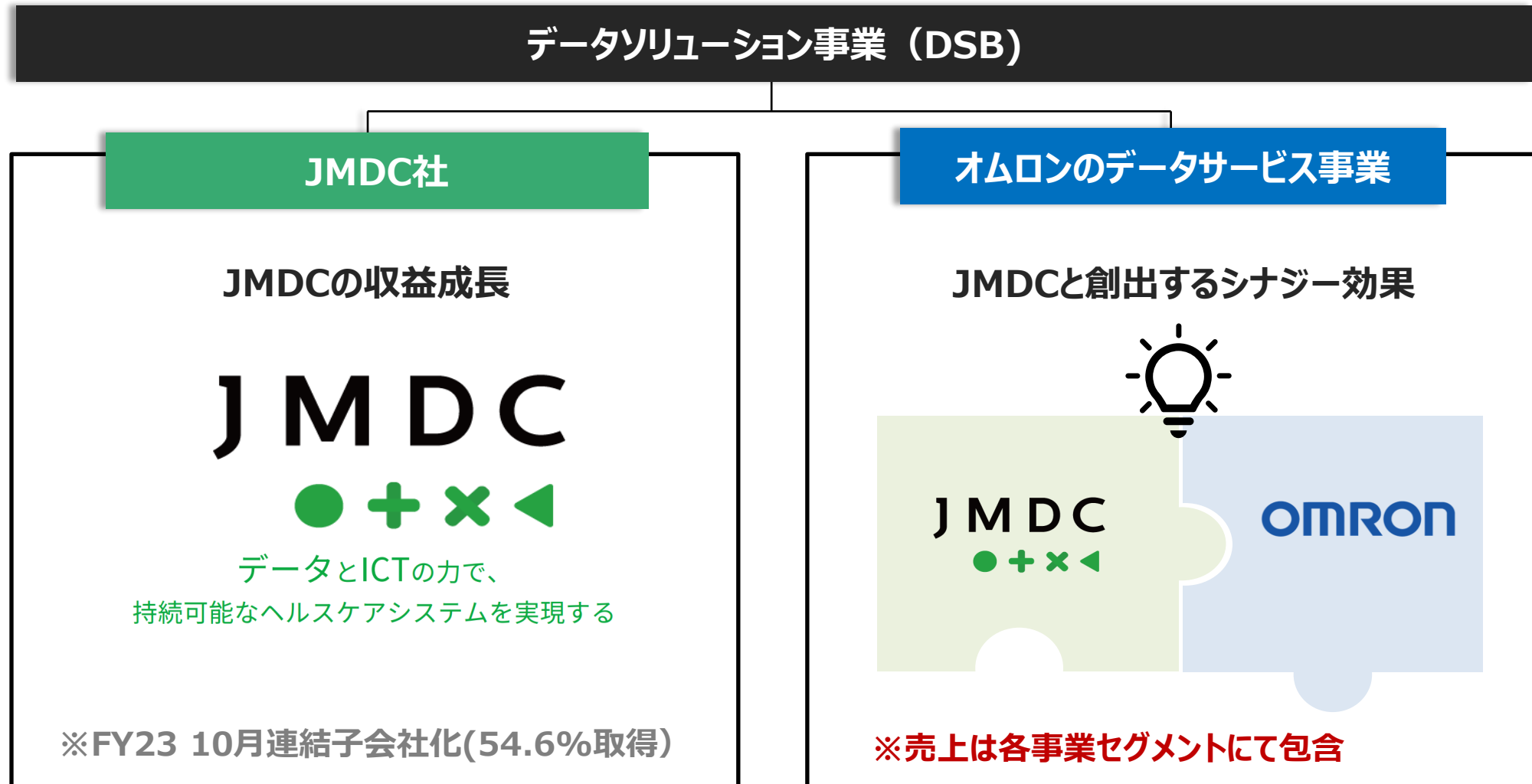
戸建住宅総数：総務省 統計局「平成30年 住宅・土地統計調査」より
一般社団法人 太陽光発電協会「JPEAによる2035年の太陽光発電 導入見通しと課題・チャレンジ」P14より (https://www.renewable-ei.org/pdfdownload/activities/S1-JPEA_TMasukawa_20240314.pdf)
一般社団法人日本電機工業会「JEMA 蓄電システムビジョン(Ver.7)」より ([https://www.jema-net.or.jp/jema/data/S7216\(20220427\).pdf](https://www.jema-net.or.jp/jema/data/S7216(20220427).pdf))

新エネルギーの導入・デジタル化社会の実現に向け、高周波・省エネ等のデバイスを提供

主なエンドユーザー/マーケット

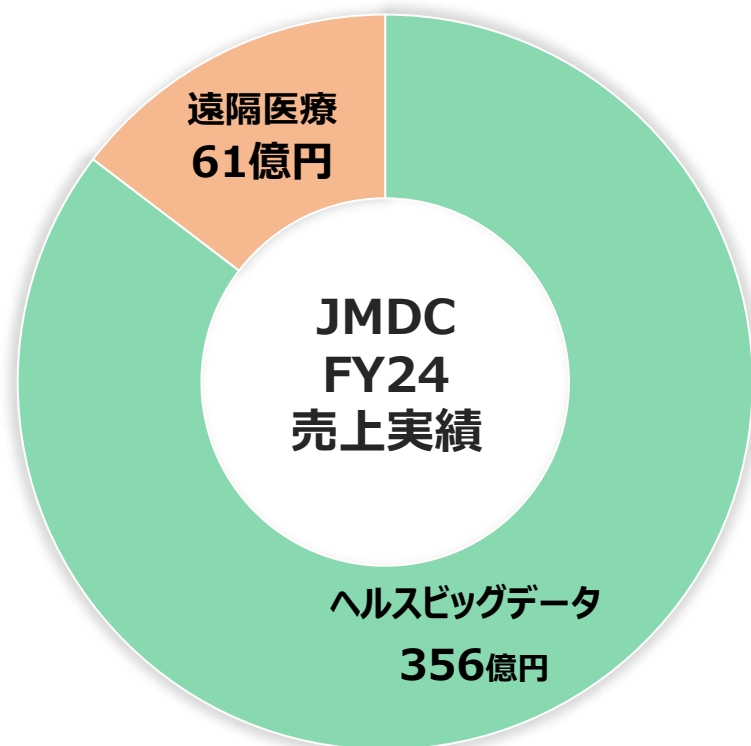


データを活用した新規事業の開発・拡大と、グループにおけるソリューションビジネスの進化をリード

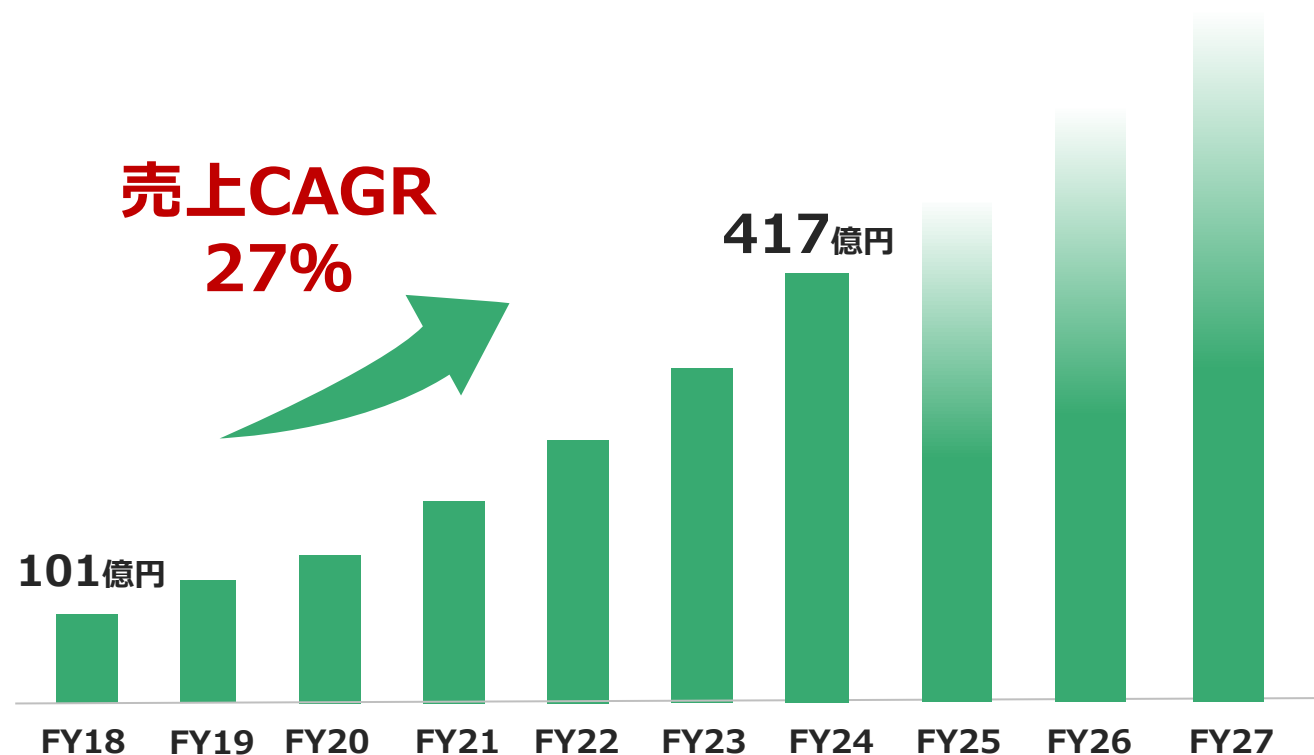


JMDCは**圧倒的なヘルスビッグデータと分析力**を武器にデータヘルスケア市場をリードし、高い成長率を誇る

売上構成比

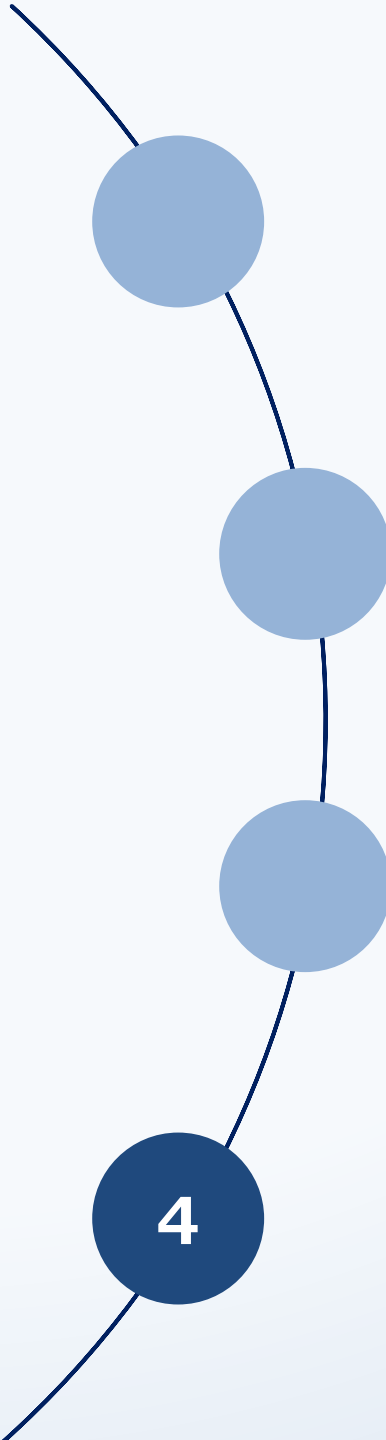


JMDC売上推移



JMDCのグループ参入により3事業のDXを加速。データソリューションビジネスの拡大を図る





オムロンの概要

中期経営計画と構造改革

オムロンの事業

4

ESG・還元方針



CDP「気候変動」で「A-」、「水セキュリティ」で「B」評価に選定



「EcoVadis」 「Gold（上位5%）」に格付け



「S&Pグローバル・サステナビリティ・イヤーブック」メンバー
12年連続選定



「DJSI World（現Dow Jones Best-in-Class World Index）」
8年連続選定

「MSCI ESG Leaders Indexes」 10年連続選定



「FTSE4Good Index Series」 9年連続選定

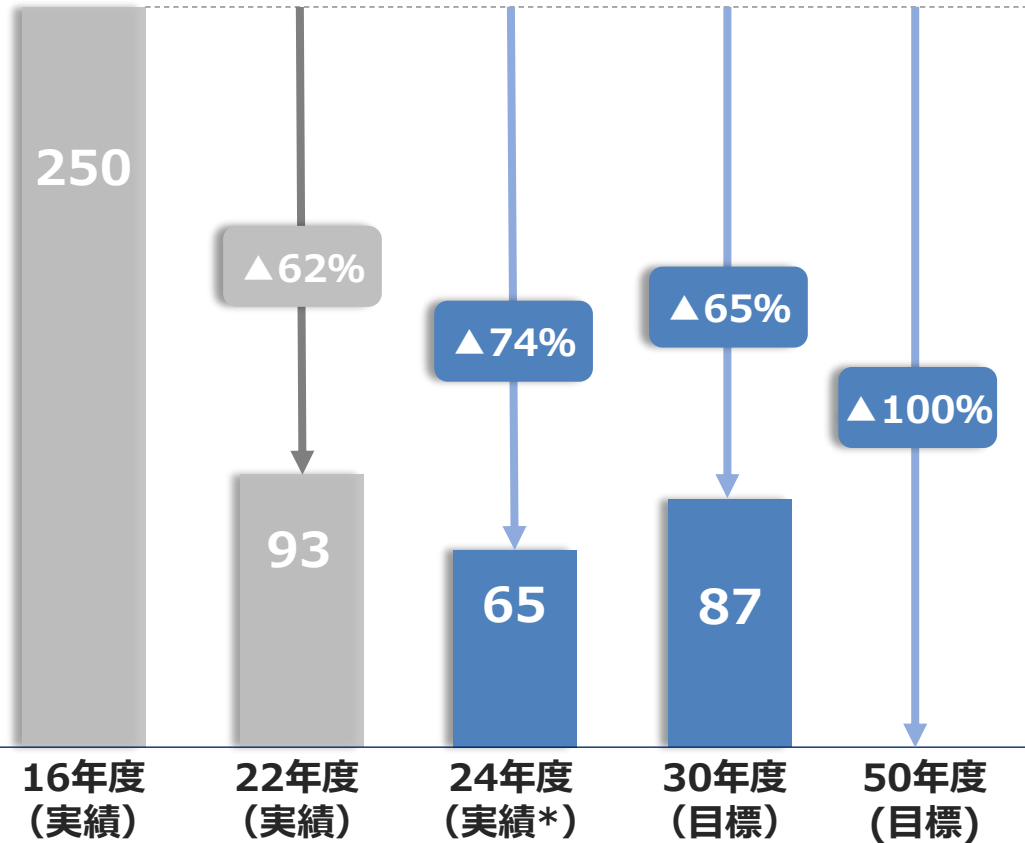


「ISS ESGコーポレート・レーティング」 「プライム」初獲得

自社拠点におけるカーボンニュートラルの推進（Scope 1・2）

SF 1st Stageでは、国内全拠点のカーボンゼロ実現などに取り組む

GHG排出量削減目標（Scope1・2） 単位：kt-CO2



*24年度末時点の見込み数値

SF 1st Stage 対象と取り組み目標

国内

全76拠点のカーボンゼロ*の実現

- 創エネ・省エネ拡大
- 社会システム事業のエネルギー事業で得るJクレジットの活用

グローバル

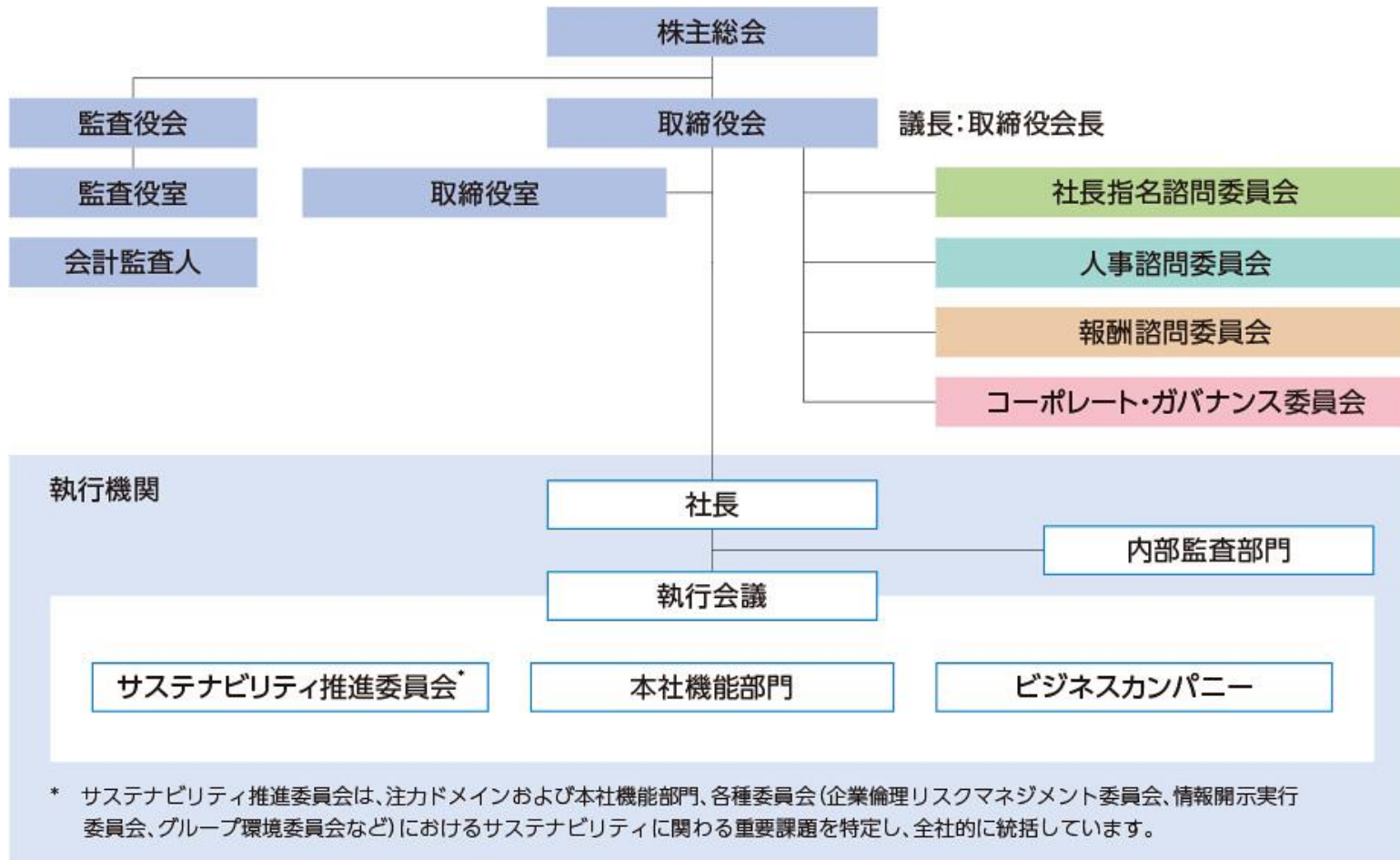
全拠点への創エネ・省エネの拡大

- 生産拠点での省エネ設備の更新
- 太陽光自家発電の新設 等

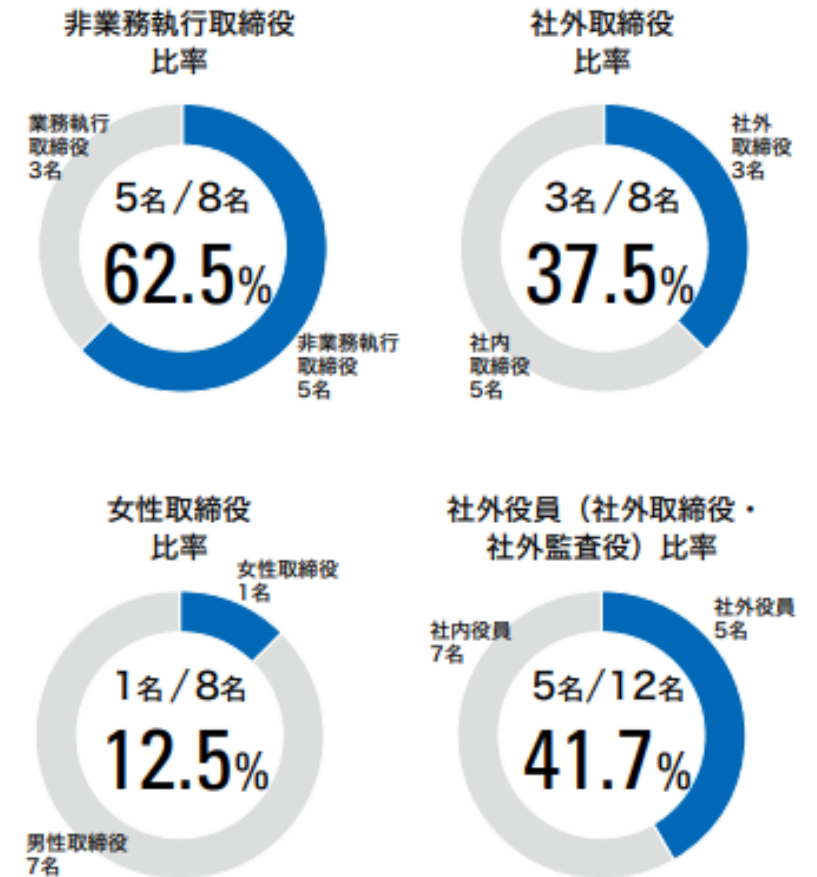
* 生産13拠点、非生産（本社・研究開発・販売）63拠点における自社の電力使用により排出されるGHG（Scope2）が対象

持続的な価値向上を担保するため、透明性・実効性の高い機関設計

コーポレート・ガバナンス体制



取締役会の構成



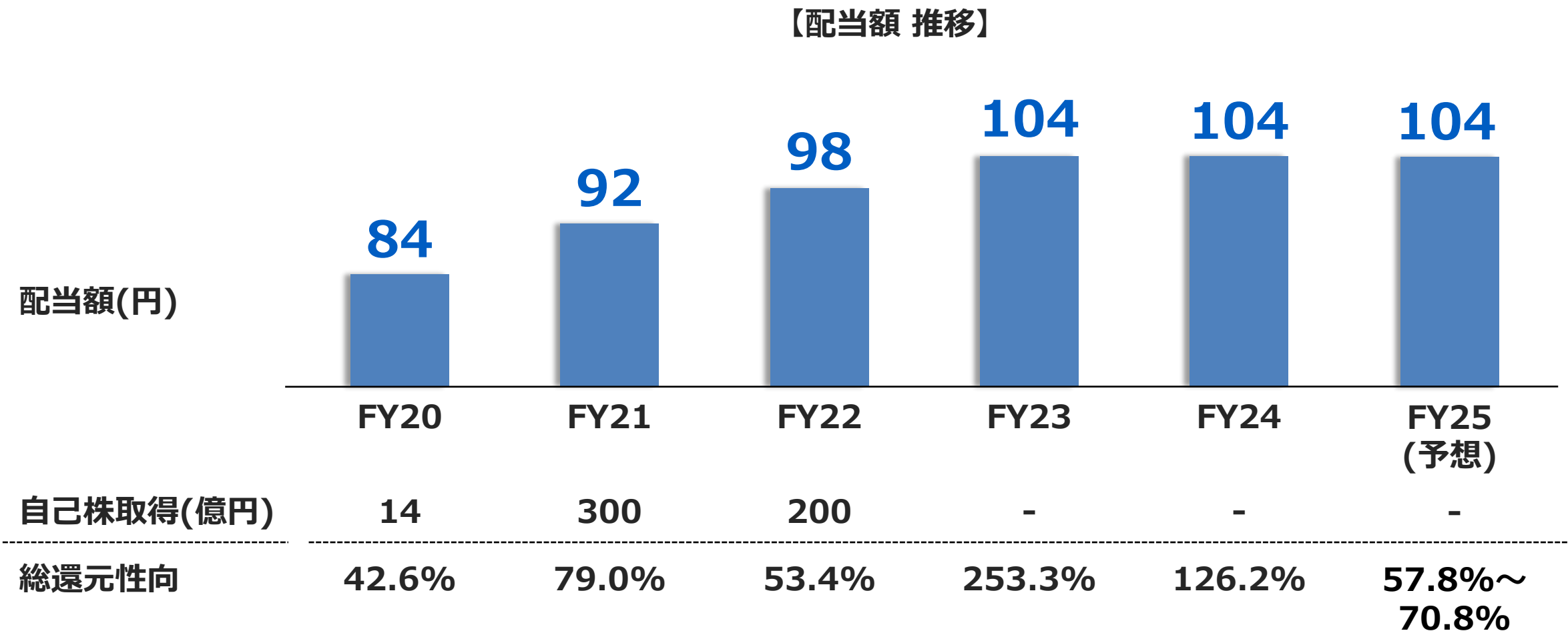
キャッシュアロケーション・ポリシー

- 企業価値の最大化を目指し、中長期視点で新たな価値を創造するための投資を優先
- 構造改革期間は「業績の立て直し」および「収益・成長基盤の再構築」を実現するために必要な投資を最優先で実行。その上で、安定的・継続的な株主還元を実施
- 投資や株主還元の原資は、内部留保や営業キャッシュフローを基本とし、必要に応じて適切な資金調達手段を講じて充当

株主還元方針

- 安定的な配当実現のため「株主資本配当率（DOE） 3 %程度」を基準とする
- 投資と利益配分を実施した上で、さらに長期にわたり留保された余剰資金については自己株式の買入れなどを機動的に実施する

企業価値の向上と安定的な配当により、株主還元の充実化を実現



OMRON